

加能郷土辭彙

日置謙編

ア

アイカハ 愛河コイ 石川郡西泉の内の小字。もと相河と書いた。その北方田間に一段高き館址があり、龜尾記には、天正八年柴田軍の侵入した時、相子三郎左衛門が近郷の永島備前と共に爰に據つて戦死したとする。

アイゼンイン 愛染院 金澤觀音町の山上にあつて眞言宗に屬し、元は觀音院の支院であつた。貞享の觀音院由來書に、當寺地内愛染院は、慶安三年觀音院三世祐譽の創立に係るとある。今殆ど廢寺に歸してゐる。

アイタキボウ 鮎瀧坊 能美郡相瀧に在つた一向宗寺院で、蓮如の三男蓮綱の創めた所であるが、今は存せぬ。反古裏に、『永正の夏圓如上人あそばされ候御自筆御判の御書云云。その條數に、近年郡都ともに坊舎造立の事しかるべからず云々。よろしく停止あるべき旨仰出さる。是により私建立の在所、若松・清澤・二俣・波佐谷・鮎瀧・山田・瀧野の外は略定す。』と見える。

アオジンジャ 阿於神社 もと鹿島郡鶴浦に在つた。式内等舊社記に、『阿於神社。中山

アイ—アカ

郷鶴浦村鎮座。稱『阿於大明神。』又貞享書上に、『鶴浦村氏神御門主阿於大明神、末社御門津波久志社・門島鼻社・阿於野邊社。』とある。蓋し阿於神社は、もと鶴浦の内崎山の阿於谷に鎮座したもので、今鶴浦なる御門主比古神社の相殿となつてゐる櫛八玉命であらう。

アオダニ 相合谷 石川郡栗川庄に屬する部落。

アオダニイシ 相合谷石 石川郡相合谷から出る石材。寶曆十三年の調書に、瀬領村の者が石山を買受けて之を切出したとある。

アカアシ 赤脚 ↓アカジリ 赤尻。

アカイハ 赤岩 能美郡白峰に屬する小字。白峰から牛首川に沿うて九軒を測つた右岸に在る。

アカイハジヨウ 赤岩城 ↓アカラジヨウ 赤尾城。

アカイハノカツラ 赤岩の桂 能美郡白峰部落に屬する赤岩の虫尾社境内に大桂があり、地上一米に於いてその叢生した周圍一四米四を測つたが、昭和九年七月十一日手取川の洪水に流失した。

アカウサギヤマ 赤兎山 ↓アカオニヤマ 赤兎山。

アカウラ 赤浦 鹿島郡奥原保に屬する部落。

アカウラガタ 赤浦瀧 鹿島郡赤浦に在つて、湖脚松百を經、七尾南灣に通ずる。周圍四軒餘。もと入江であつたといひ、今も鹹水を湛へて居る。

アカウラシン 赤浦新 鹿島郡奥原保に屬する部落。

アカオニヤマ 赤兎山 能美郡と越前大野郡との境界に在つて、高さ一六二九米。山體石英粗面岩。地圖にこれを赤兎山と記すものあるは誤である。

アカガタニ 赤ヶ谷 鳳至郡波並部落の北にある谷。

アカガミ 赤神 鳳至郡七岸郷に屬する部落。

アカガミ 赤神 珠洲郡馬縹のうちの小字。

アカカミサキ 赤神崎 鳳至郡赤神の海岸に在る岬角。

アカクラゴンゲン 赤藏權現 鹿島郡三引の赤藏山に在つた社殿。式内等舊社記に、『赤藏神社。三引保赤藏山鎮座。稱『赤藏權現。』或云赤藏山本宮權現。祭神大己貴命。』とあり、縁起には、天平二年多武峯定惠の高弟愚淵が、東宮の眼疾平癒を此の山に祈つて治し

た爲に神殿造營を命ぜられ、赤藏山本宮寺と稱したとなつて居る。後戰亂の爲に衰へたが、長連龍がこの地方を領するに及び再興し、その子連頼の時寛文元年六月の寄進狀には、堂塔修理料七石四斗、院主十五石、榮春院十三石三斗、怡岩院十二石五斗、千手院及び乘藏坊各六石七斗と記するが、後には榮春・怡岩二院のみになつた。能登名跡志に、『赤藏山本宮寺とて高嶺にあり。推古天皇の御祈願所にして、昔は七堂伽藍御建立あり。六十餘坊建並びて鎮地の大寺なりしを、兵亂に炎上して奥院・二王門まで残りありしを、其後長家より再興あるといへども、今僅に奥院・講堂と榮春院・怡岩院の二坊のみあり。瀧より奥本社へは廿町登る也。赤藏權現、本地千手觀音也。十五町に御手洗の池あり。冷水にして清き事限りなし。講堂の本尊は、弘法大師の作五智如來、丈六の金像の大佛五鉢安置あり。靈場にして石動山に準ずる山也。密宗也。又龜山天神とて麓に立せ給ふ。又近き比までは赤藏山は兩部習合にて、神主長尾土佐守とありしに、社僧と論有て退轉せり。』と記してゐる。

アカクラサンエンギ 赤藏山縁起 鹿島郡三引なる赤藏神社の別當赤藏山本宮寺の縁起